

2015.11.9

◎鈴木はる美さん研究レポート補足

ー鈴木はる美さんより

土曜日の研究レポートの中で、約300年前に『ローマ典礼儀式書』と説明しましたが、出典の『指輪の文化史』浜本隆志著 2004年白水ブックスによると、下述になります。

普段おしゃべりな私もテーマが異なると、上がりました。

『ローマ典礼儀式書』1614年には「結婚指輪は今後、左手にはめるべし」と定めている

これは結婚指輪にかんしてであったが、「ドイツでは、婚約指輪を左手薬指にはめ、」。「結婚式の際にそれを右手に嵌め直す」

(U/シュテューヴァ『装飾のよろこび』) ことも行った。

なお婚約・結婚指輪以外の装飾指輪は、比較的自由に嵌めている。

いずれにしても、古代や中世に出現した左手薬指に婚約・結婚指輪をはめる慣習は、その後、混乱期を経つつも連綿と生き続け、現在に至っている。

これはヨーロッパにおいて、キリスト教の伝統を尊重する精神の根強さを物語るものである。

とあります。p 116～117 です。

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

※このメールアドレス(j-bunka@jj-craft.com)には返信できません。

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事戸倉博之 spina@precious-chroma.com